

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年2月7日
【四半期会計期間】	第5期第1四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）
【会社名】	株式会社グローバルキッズCOMPANY
【英訳名】	Global Kids Company Corp.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 石橋 宜忠
【本店の所在の場所】	東京都千代田区富士見二丁目14番36号
【電話番号】	03-3221-3770(代表)
【事務連絡者氏名】	財務IR部長 生川 雅也
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区富士見二丁目14番36号
【電話番号】	03-3221-3770(代表)
【事務連絡者氏名】	財務IR部長 生川 雅也
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第4期 第1四半期 連結累計期間	第5期 第1四半期 連結累計期間	第4期
会計期間	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日	自 2018年10月1日 至 2019年9月30日
売上高 (百万円)	4,480	5,382	19,694
経常利益 (百万円)	18	122	1,786
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失 ()	38	80	1,116
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	33	87	1,114
純資産額 (百万円)	6,544	7,793	7,706
総資産額 (百万円)	17,362	18,690	18,259
1株当たり四半期(当期)純利 益又は1株当たり四半期純損失 ()	4.21	8.77	122.24
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益 (円)	-	8.56	119.23
自己資本比率 (%)	37.6	41.6	42.1

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第4期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1)経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、堅調な企業収益や雇用・所得環境の改善により緩やかに回復しているものの、米中貿易摩擦による世界的な景気減速懸念が高まるなど、先行きは不透明な状況で推移しました。

このような環境のなか子育て支援事業を取り巻く状況は、女性の社会進出に対する意識の変化や政府による女性の活躍推進などにより、共働き世帯数や女性の就業率は依然として上昇傾向にあり、保育に対する需要は引き続き高い状況にあります。

こうした保育需要増加に対応するため、政府・自治体が保育の受け皿拡大を目的に保育士確保や保育所整備の施策を進めており、2020年度末までに保育の受け皿を300万人分程度とする方針を掲げています。こうした政府の取り組みの結果、保育所数が増加していることもあり、保育所の新設に対する需要は今後、ややペースダウンすることが想定されます。一方で、2019年10月から幼児教育・保育の無償化が開始されたことで保育所への入所希望者が増えることも想定され、保育所の新設に対する需要は当面の間、一定程度続く見込まれます。

高齢化や総人口の減少による労働人口の減少が懸念されるなかで、経済の活力の担い手となる女性の社会進出のためには保育環境の整備、保育の質向上が課題であり、子育て支援事業者の社会的役割は一段と重要性を増しております。

当社グループは当第1四半期末時点で、認可保育所118施設（東京都86施設、神奈川県23施設、千葉県3施設、埼玉県1施設、大阪府5施設）、認証保育所・認定こども園等保育施設23施設、企業主導型保育所11施設、学童クラブ・児童館13施設、児童発達支援事業所1施設の計166施設を営んでおり、さらに2020年4月に東京都を中心に認可保育所を新規に7施設開設する予定です。加えて、前連結会計年度から新規参入した児童発達支援事業所を2～3施設開設し、合計9～10施設の開設を予定しております。

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、運営施設数の増加を主因とした園児数増加により売上高が増加しました。一方で、保育士獲得や保育の質向上を目的とした働き方改革を戦略的に進めたことで人件費が増加しましたが、販売費及び一般管理費の抑制で吸収し営業利益率が向上しました。

上記の結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高5,382百万円（前年同期比20.1%増）、営業利益77百万円（同203.1%増）、経常利益122百万円（同564.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益80百万円（前年同期は38百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

(2)財政状態に関する説明

（資産）

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して430百万円増加し18,690百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して402百万円増加し4,213百万円となりました。これは、短期借入を実施したことに伴い現金及び預金が202百万円増加したことや未収入金が112百万円増加したことが主因です。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して28百万円増加し14,477百万円となりました。これは、4月の新規開園準備のため建設仮勘定が239百万円増加したことが主因です。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末の総負債は、前連結会計年度末と比較して343百万円増加し10,896百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して544百万円増加し3,631百万円となりました。これは、賞与引当金が275百万円減少した一方、新規開園に向け新たに500百万円の短期借入を行ったほか、前受金が185百万円、未払金が164百万円増加したことが主因です。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して200百万円減少し7,265百万円となりました。これは、長期借入金が221百万円減少したことが主因です。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比較して86百万円増加し7,793百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が80百万円増加したことが主因です。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4)研究開発活動

該当事項はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当社の連結子会社である株式会社グローバルキッズは、「えんマッチ」事業を日本生命保険相互会社の子会社である株式会社ライフケアパートナーズに事業承継することについて2019年10月29日に基本合意書を締結いたしました。

詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(重要な後発事象)」をご参照ください。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	20,000,000
計	20,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年2月7日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,172,058	9,180,880	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	9,172,058	9,180,880	-	-

(注) 1. 「提出日現在発行数」欄には、2020年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

2. 「提出日現在発行数」の普通株式の増加は、2020年1月16日を払込期日とする譲渡制限付株式報酬としての新株発行によるものです。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高(百万 円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日(注)1	2,000	9,172,058	0	1,275	0	2,543

(注) 1. 新株予約権の行使による増加であります。

2. 2020年1月16日を払込期日とする譲渡制限付株式報酬としての新株発行による増資により、提出日現在の発行済株式総数が8,822株、資本金及び資本準備金がそれぞれ3百万円増加しております。

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,167,600	91,676	-
単元未満株式	普通株式 2,258	-	-
発行済株式総数	9,170,058	-	-
総株主の議決権	-	91,676	-

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社グローバルキッズCOMPANY	東京都千代田区富士見二丁目14番36号	200	-	200	0.00
計	-	200	-	200	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,480	1,682
未収入金	1,932	2,045
前払費用	392	480
その他	6	4
流動資産合計	3,810	4,213
固定資産		
有形固定資産		
土地	589	589
建物及び構築物(純額)	10,640	10,470
建設仮勘定	32	272
その他(純額)	437	416
有形固定資産合計	11,701	11,749
無形固定資産		
ソフトウェア	30	27
ソフトウェア仮勘定	23	36
無形固定資産合計	54	64
投資その他の資産		
投資有価証券	79	81
長期前払費用	705	674
敷金及び保証金	1,546	1,554
建設協力金	324	319
繰延税金資産	10	6
その他	26	26
投資その他の資産合計	2,693	2,663
固定資産合計	14,448	14,477
資産合計	18,259	18,690
負債の部		
流動負債		
短期借入金	-	500
1年内返済予定の長期借入金	907	898
1年内償還予定の社債	23	-
未払金	1,228	1,393
未払法人税等	93	38
前受金	71	257
賞与引当金	553	277
その他	209	265
流動負債合計	3,087	3,631
固定負債		
長期借入金	5,032	4,810
退職給付に係る負債	255	267
繰延税金負債	1,852	1,861
資産除去債務	319	319
その他	6	5
固定負債合計	7,466	7,265
負債合計	10,553	10,896

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,275	1,275
資本剰余金	1,963	1,963
利益剰余金	4,522	4,603
自己株式	0	1
株主資本合計	7,760	7,840
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	0
退職給付に係る調整累計額	72	66
その他の包括利益累計額合計	73	66
新株予約権	19	19
純資産合計	7,706	7,793
負債純資産合計	18,259	18,690

(2)【四半期連結損益及び包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)
売上高	4,480	5,382
売上原価	3,871	4,707
売上総利益	608	674
販売費及び一般管理費	583	597
営業利益	25	77
営業外収益		
受取利息及び配当金	0	3
補助金収入	-	47
その他	2	0
営業外収益合計	3	51
営業外費用		
支払利息	7	7
その他	2	-
営業外費用合計	10	7
経常利益	18	122
税金等調整前四半期純利益	18	122
法人税等	56	42
四半期純利益又は四半期純損失()	38	80
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	38	80
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	1
退職給付に係る調整額	4	5
その他の包括利益合計	4	7
四半期包括利益	33	87
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	33	87
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	161百万円	199百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の
未日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の
未日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、「子育て支援事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失()	4円21銭	8円77銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(百万円)	38	80
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(百万円)	38	80
普通株式の期中平均株式数(株)	9,106,574	9,169,920
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	-	8.56
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	226,646
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

企業結合等関係

当社の連結子会社である株式会社グローバルキッズは、「えんマッチ」事業()を日本生命保険相互会社の子会社である株式会社ライフケアパートナーズに事業承継することについて2019年10月29日に基本合意書を締結いたしました。その後、2020年1月1日付で事業承継を実施いたしました。

譲渡の目的

「えんマッチ」を更に普及・発展させることを目的としております。なお、当社グループは、株式会社ライフケアパートナーズの一部株式を取得し、資本参加および業務提携することにより、「えんマッチ」事業に引き続き関わり支援して参ります。

譲渡した相手方の名称

株式会社ライフケアパートナーズ

譲渡した事業の内容

「えんマッチ」事業

譲渡の時期

2020年1月1日

譲渡価額

譲渡価額につきましては、譲渡先との守秘義務より開示を控えさせていただきます。

「えんマッチ」とは、育休中社員の早期の職場復帰のために保育園利用枠を確保したい企業に、企業主導型保育所の企業枠を提供する保育版シェアリングエコノミーモデルのことであります。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月7日

株式会社グローバルキッズCOMPANY
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岩崎 剛 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 杉江 俊志 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社グローバルキッズCOMPANYの2019年10月1日から2020年9月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社グローバルキッズCOMPANY及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。